

○ 委員長報告

1 2月定例会本会議で報告された農林水産委員長報告は、以下のとおりです。

令和元年12月定例会

農林水産委員長報告

報告いたします。

当委員会に付託されました議案の審査結果は、お手元に配付されております委員会審査報告書のとおりでありまして、原案のとおり可決決定されました。

以下、審査の過程において論議された主な事項について、その概要を申し上げます。

まず第1点は、CSF（豚コレラ）等の防疫対策についてであります。

このことについて一部の委員から、CSF等に対する防疫対策の強化について、具体的な取組みはどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、関東圏でのCSF発生や韓国でのASF（アフリカ豚コレラ）の発生を踏まえ、県内全ての養豚場での野生イノシシ侵入防護柵の整備や、防鳥ネット、消毒設備の設置を支援するとともに、殺鼠剤(さっそざい)によるネズミの防除指導など、野生動物を介したウイルスの侵入防止対策に取り組むこととしている。

また、水際対策を強化するため、空港での靴底消毒マットの常設化等に加え、家畜保健衛生所へのCSF検査キットの配備による迅速な検査体制の整備等も行うこととしており、今後も高いレベルでの警戒態勢を維持し、CSF等の発生防止に努めたい旨の答弁がありました。

第2点は、アコヤガイ稚貝等のへい死対策についてであります。

このことについて一部の委員から、へい死原因の究明状況はどうか。また、真珠母貝・真珠養殖業者に対する支援にどう取り組むのかとただしたのであります。

これに対し理事者から、へい死原因については、高水温や餌不足のほか、感染症の可能性も排除できないため、水産研究センターや国の研究機関で検査を実施しているほか、近親交配による貝の弱体化についても、愛媛大学等と協力して解析を進めることとしている。県としては、生産者が安心して事業継続できるよう、スピード感を持って対応したいと考えているが、原因究明には、なお時間を要するとの専門家の指摘もあり、慎重かつ丁寧に検討していきたい。

また、事業者への支援については、水産研究センターで緊急に生産した約100万個の稚貝を無償配付したほか、漁業者緊急支援資金の償還延長や、漁業近代化資金の融資枠拡大による経営支援を行うこととしており、今後も関係市町と連携して、被害の最小化に努めたい旨の答弁がありました。

第3点は、「ひめの凜」の販売状況についてであります。

このことについて一部の委員から、今年度デビューした「ひめの凜」の販売状況と来年度に向けた取組みはどうかとただしたのであります。

これに対し理事者から、「ひめの凜」は、11月6日から販売を開始し、現在、県内の200店舗以上のスーパーなどで販売されている。最上位ランクのプレミアムクオリティの売れ行きは、価格帯が同じ新潟県産コシヒカリの5倍以上と、米の新商品としては異例の売れ行きと聞いており、また、先日の「えひめ・まつやま産業まつり」での試食アンケートにおいても、食味の評価や認知度がとても高かった。

来年度は、作付面積を64haから100haに拡大するとともに、更なるファンを獲得できるよう、生産面での品質確保も徹底しながら、生産・販売の両面で戦略的に取り組みたい旨の答弁がありました。

このほか、

- ・今年度の真珠生産の見通し
- ・一次産業女子農業体験ツアー
- ・農作物の防除体制
- ・輸出に向けた国際認証の取得促進
- ・県産材の増産の取組み

などについても、論議があったことを付言いたします。

以上で報告を終わります。